



光といのち

第138号
一報恩講一
2022年11月4日発行

発行所
真宗大谷派勝善寺
〒299-2214

千葉県南房総市二部1344-2

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメール info@syozenji.or.jp

住職 釋孝昌(井上孝昌)

親鸞聖人の教
えがなかつたら、
私は思の中に居
ながら恩を知ら
ないでいたことで
ある。
暁鳥 紋

報恩講

速夜たいや

十一月十八日(金)
十五時〜十六時
法話 住職

晨朝じんじょう

十一月十九日(土)
六時〜六時三十分
法話 副住職

日中にちちゆう

十一月十九日(土)
九時三十分〜十一時四十五分
法話 東京港区了善寺住職
百々海 真師

講題 「実語を耳底に貼す」
じつご みみのそこ のこ

※お勤めの次第は、見開きページ

報恩講は、ご門徒が主催する私たち真宗門徒にとつてもっとも大切な法要です。十月二十三日(日)に世話人総会を開き、役割分担などを話し合いました。親鸞聖人のご恩徳に報いる法要ということですが、私たちにほのかなか実感が湧きませんね。しかし、その心が有ろうが無からうが、報恩講をお勤めすること自体が報恩の表現であり、浄土真宗を伝えている事実でもあります。さらにそれは、聖人のお心になつたことでもありません。とところで蓮如上人は、報恩講に参詣したご門徒に「ただ席をふさいでいるだけでは勿体ない。信心をいただいでください」と仰います。

勝善寺住職を拝命して、今年
は十五回目の報恩講です。

みな様と共に浄土真宗を歩みたく、月に一度は仏法を聴聞できるよう法要や聞法会を開催して参りました。またご門徒からの要請で始まった毎週「月曜朝

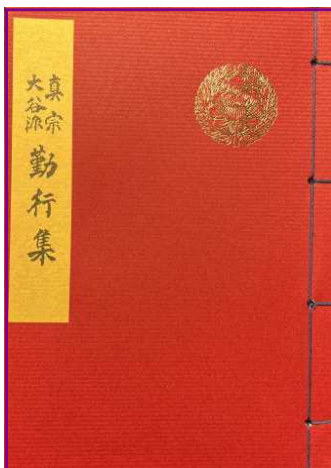
のお勤め」は、各々が信心を確認し、その週をスタートする法座として続いています。

さて、蓮如上人は「一人なりとも、人の、信を取るが、一宗の繁昌に候う」と仰います。

「あなた」お一人が「信を取る」ことが勝善寺報恩講の目的であります。万障お繰り合わせ、お参りください。

なお、本堂にお参りされる方は、準備の都合がありますので、あらかじめご連絡ください。

また各法要は『真宗大谷派勤行集』(赤本)を用いて皆さんでお勤めします。(見開きページ参照)ユーチューブ画面から自宅で参加される方をお持ちでない方には差し上げますので、参加申込みのメールでお伝えください。



次 第

逮夜 11月18日（金） 15時～16時 同朋唱和

- | | |
|---------------------|------------------------|
| ①正信偈 | 『真宗大谷派勤行集』（赤本） 3～32ページ |
| ②念仏 | 同97ページ |
| ③和讃「弥陀成仏のこのかたは」から6首 | 同 98～100ページ |
| ④回向「願以此功德」 | 同101ページ |
| ⑤『御俗称御文』 拝読 | 別添 |
| ⑥法話 | 住職 |

晨朝 11月19日（土） 6時～6時30分 同朋唱和

- | | |
|----------------------|------------------------|
| ①正信偈 | 『真宗大谷派勤行集』（赤本） 3～32ページ |
| ②念仏 | 同 97ページ |
| ③和讃「専修のひとをほむるには」から6首 | 同111～113ページ |
| ④回向「願以此功德」 | 同101ページ |
| ⑤御文「御正忌」 拝読 | 同 62～67ページ |
| ⑥法話 | 副住職 |

日中 11月19日（土） 9時30分～11時45分 同朋唱和

- | | |
|-------------------|------------------------|
| ①正信偈 | 『真宗大谷派勤行集』（赤本） 3～32ページ |
| ②念仏 | 同 97ページ |
| ③和讃「弥陀大悲の誓願を」から6首 | 同117～119ページ |
| ④回向「願以此功德」 | 同101ページ |
| ⑤法話 | 了善寺住職 百々海 真 師 |

本堂かご自宅（ユーチューブ）どちらかで、 報恩講をお参りしましょう！

1 ユーチューブを視聴するには

①パソコン・スマートフォンなどの端末装置で視聴します。

②勝善寺（info@syozenji.or.jp）からメールでURLを皆さんの端末装置に送ります。

例えば、URLはたとえば、<https://youtu.be/Q9uclhmyU50> のように表示されます。

※11月17日（木）までにURLを送付します。ただしスマートフォンの迷惑メールフィルターを解除していないと届かないことがあります。この場合は、メールフィルターの設定を「@syozenji.or.jp」からの受信を許可するようにしてください。わからない時には、お手数ですがご使用のスマートフォンのサポートセンターなどにご相談ください。

③各法要時刻前にURLをクリックすると、勝善寺本堂内の映像が開きます。

2 準備

①勝善寺メールアドレスに、氏名と住所・電話番号を記し「報恩講にお参ります。」と早めにメールしてください。

②お内仏（お仏壇）の掃除をします。真鍮製の仏具は磨きます。

③前卓に打敷（うちしき）をかけ、仏花とお供物を調えます。

※御本尊阿弥陀如来像と御脇掛け九字十字の名号が無い方は、申し出てください。

本山からお手元に届くよう取り次ぎます。

3 お勤め

①正装し、念珠を持ち門徒章（肩衣）をかけます。

②『真宗大谷派勤行集』（赤本）を用意します。

③ユーチューブライブに合わせて、「正信偈」などをお勤めします。

④法話を聴聞します。

4 報恩講志

御懇志をお寄せくださる方は、郵送あるいは下記の口座にお振り込みください。

館山信用金庫 店番 005 口座番号 0103547

宗教法人 勝善寺 代表役員 井上孝昌

報恩講用口座

昭和二十一年（終戦の翌年）先生は報恩講を迎えるに当たり、門信徒に配付する報恩講の案内状裏面に、次のような文章を添えた。

報恩講の案内状に添うる言葉

私共人間は恩波の上にただよっている小舟のようなものである。前も恩、後ろも恩、右も恩、左も恩、過去も恩、未来も恩、私がこの世に居るといふことの一切が御恩である。この御恩は返しても返しても加わってくる。

私共の生活は恩をうくる生活であると同時に恩に報ゆる生活である。この事を教えて下さったのが親鸞聖人である。聖人の教えがなかったら、私は恩の中に居ながら恩を知らないでいたことである。



林曉宇著『暁鳥先生と報恩講』
(具足舎発行) 扉写真より

これによって思うに、聖人が私の受けている御恩の根本である。

一年三百六十五日、一日として報恩の日でない日はない。毎日が報恩講である。その報恩講の最も根本的なるものが親鸞聖人の御恩に対する報恩講である。聖人の報恩講を営むことによって報恩の生活が明らかになるのである。毎年十一月、聖人の報恩講に逢う毎に、御恩の中に育っている自分を明らかにしていただくのである。故に私は毎年の報恩講が生活刷新の根本であると感じている。毎年報恩講を営むことによつて、生活のよろこびと力とを鼓舞せられることである。

昭和二十一年の報恩講も近づいて来た。私は知友同行と共にこの報恩講を迎うるのに胸をおどらしておる。報恩講に際して聖人に捧ぐる最上のお供物は聖人のお客人を迎うることである。私は聖人のお客人として私の営む報恩講の御座に一人でも沢山の知友同行の集まられることを望んでいるのである。聖人の最も喜ばせられるお客として皆さんを御招待する光栄を感じるのである。

昭和二十一年十一月

明達寺住職 暁鳥 敏

これは、『暁鳥先生と報恩講』からの抜き書きです。著者の林曉宇師は、あとがきで「（この本の編集の）仕事の中で私は、暁鳥先生のもので、同僚と共に緊張して報恩講をお迎えした五十年前の若き日に帰らせていただいたまま。厳肅に報恩講を迎えられた先生のお姿にあたらしくおあいして、私における報恩講の原点に帰らしていただきました。」と、述べておられます。

「暁鳥先生」は、言うまでもありませんが、あけがらす暁鳥 はや敏 師です。師は、昭和二十九年に八十七歳で還浄されましたが、今ここで説法されています。

「私共の生活は恩をうくる生活であると同時に恩に報ゆる生活である。この事を教えて下さったのが親鸞聖人である」と。

偉そうに一人前の顔をして、「恩波」にはまったく気づかない私です。

もし親鸞聖人の教えに遇わなかったら、自是非の鼻持ちならない自分に気づいたとしても、暗く沈むばかりで報恩感謝の明るい生活は、ただけなかったことでありましょう。

南無阿弥陀仏